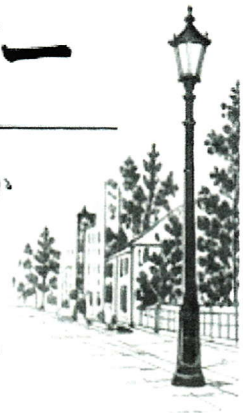
「人間失格」を書き上げた街・大宮で太宰治の足跡を辿る探索ツアー



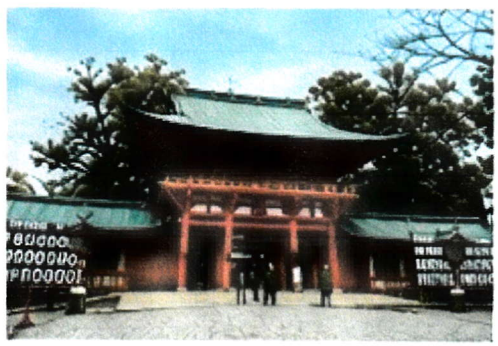
なぜ太宰はその一か月後、玉川上水に身を投げなければならなかったのか
大宮に来なかったら死を選けることができたのか
なぜ死の前日にまた大宮にやってきたのか
その秘密を探りながら、太宰で長らく太宰について調査研究を重ねる
玉手洋一先生と大宮を歩く探索ツアー。

太宰が住んだ「大宮」という街

昭和２３年より名作『人間失格』の執筆に取り掛かった太宰治を太宮に連れてきたのは筑摩書房の古田晁という人物。太宰が大宮に住んだのは昭和23年4月２９日から5月１２日までの約２週間でしたが、太宰はこの期間心から安らぎを持って執筆活動に打込み、ようやく『人間失格』を脱稿し、「次の『グッド・バイ』もここで書きたいので、部屋は空けておいて下さい」と言い残し、三鷹の自宅へ帰りました。
それから１ヵ月後の６月１２日昼過ぎ、太宰は突然ひとりで宇治病院へ古田氏を訪ねてくる。
「古田さんいる？」
しかし古田氏は留守でした。古田氏に逢えなかったのをたいへん残念がった太宰が愛人の山崎富栄と玉川上水に身を投げたのは、その翌日、１３日の晩でした。







玉手洋一

昭和３６年生まれ。「太宰が住んだ大宮」ホームページ管理人。埼玉県の郷土史家として、縄文時代から幕末まで広く研究。２００８年より大宮を訪れた太宰に着目し調査を開始、郷土史視点での成果をあげている。
大宮で太宰が見た景色を案内する探索ツアーを企画、また全国に向けて講演活動を行う。

【日時】2026 年 12 月 6 日 13:00 ～
【集合場所】JR 大宮駅コンコース「まめの木」前
【金額】おひとり様 3000 円（30 名限定）

お申込みは、進士素丸さんのＸのＩＤ @shinjisumaru のＤＭへ
Ｘを使わない方は、玉手へのメール omiya_dazai@yahoo.co.jp でもお受けします

進士素丸 X

玉手洋一
メールアドレスへ